



ラグーマンの心意気

今秋のラグビーW杯の快挙。
世界の強豪「南ア」を下し、

日本ラグビーの存在感を示す。そんな余韻に浸りながら年の瀬を送り新年を迎える。

思い返せば、私も昭和20年代後半の六年間、青春期の真っ只中、学業もそこそこに楯円のボールを追いかけて厳しい練習、激しい対抗試合に明け暮れた日々を思い出す。敗戦の余韻が残る中、ラグビーはまだ「闘球」と呼ばれた時代である。

男らしい球技に憧れ飛び込んだものの、今の様に科学的、医学的な管理社会ではなく「走れ、走れ」で、意識朦朧となればバケツで水をぶっかけられる。練習が終わればまた外周道路をランニング。月が照る夜道を家路に就く頃は半死半生の有様であった。

そんななか、勇気づけられた言葉がある。

「ONE FOR ALL・ALL FOR ONE」
一人は全員の為に、全員は一人の為に、である。

今でもそうだが、当時は冠（スポンサー）大会を嫌い、トライを決めても本人は勿論、他の団体競技に見られる様な派手なパフォーマンスは見られない。利己心功利心のない素朴な精神が集団の根底に息づいている。

もう一つ、**ノーサイドの精神**がある。

試合が終われば敵味方なし、我が友よ、である。大試合では汗臭いジャージーを交換し合う風景がみられる。発祥の地イングランドの国民性であろうか。

キックしたボールはどちらに跳ねるか解らない奇妙な動きをする。これを「**人生の縮図**」と言ってきたが、正に歩んできたこれまでの人生を振り返ると苦笑する事が多い。今 晩年にあって若い人たちと集団の一人として老骨に鞭うつ日々だが生涯を終るまで、この精神を持ち読けたいと、今回の快挙にあらためて心に刻んだ次第である。

(川井秀夫)

自然教室チームだより

12月 OP 自然観察会 実施報告
「春を待つ植物たち
-初冬の私市植物園の散策-」

12月2日(水) 素晴らしい青空のもとで、私市植物園の自然観察会を行いました。参加者は9名とやや少なかったですが、後藤さん、佐藤さんの案内で内容の濃い楽しい観察会となりました。

朝の挨拶のあと、すぐ出てきたチャンチンモドキの試食でまずびっくり、ついで辻本(信)さんによるドングリについての分かりやすい解説、これにもイチイガシの試食がありました。

ついで、すぐ隣のリンボクについて、佐藤さんが名前の由来についてライターを使って説明してくれました。初めての体験でした。更に後藤さんによるビナンカズラの解説が続きました。たくさんの魅力的な赤い実がとてもおいしそうでした。実際には試食はおすすめではないようです。

これを皮切りに、様々な秋の木の实や紅葉・黄葉、厳しい季節に咲く可憐な花々、そして冬芽のけなげな姿を、五感を使ってゆっくりじっくり観察して回りました。



昼食の後はイチヨウの葉のキツネやシカ、笹の葉の飴、ホウの葉のヒコーキなどの自然遊びを楽しみました。

午後はまず平岡さんによるネイチャーゲーム「フィールドパターン」を行い、様々な形の自然物探しに夢中になりました。自然界にはいろいろな形があることにびっくりしました。

その後もいろいろな自然を楽しみながら2時過ぎに終了しましたが、参加者一同「とても楽しかった」「いろいろな秋の実に触れられてよかった」「準備がすごい」「素晴らしい植物園にまた来たい」「今後もこんな観察会に参加したい」などといった感想を語ってくれました。(倉田 晃)